

平成20年度 京都府立東舞鶴高等学校浮島分校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン)最終評価

平成21年3月3日版

学校経営方針(中期経営目標)	昨年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>1 基礎・基本を習得させるきめ細かな学習指導を実践し、「働きながら学ぶ」定時制本来の教育環境を整える。</p> <p>2 教員と生徒のコミュニケーションを大切にしながら、生活指導を徹底し、自己管理能力の育成を図る。</p> <p>3 生徒一人ひとりの個性を尊重し、生徒が満足する教育活動を推進する。</p>	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近年合格者がなかった英語検定試験に個別指導により合格者を出すことができた。 ・校内漢字検定において、数年ぶりに「漢字名人」合格者を出すことができた。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国大会出場においても、外部検定受検においても費用の課題が大きく著しい改善が難しい。 ・多様化する生徒全体に共通する授業方法を模索し工夫するものの効果的な授業展開が難しい。 ・進路指導の充実を図るが、生き方のモデルを提示しにくい現状があり、更に工夫改善が必要である。 	<p>1 個々の生徒学力状況に即した教科指導の工夫改善</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 基礎・基本の定着を目指した授業(わかる授業) 興味関心を持たせる授業を年間授業計画に従って実践する。 (2) 教育内容を精選し、教材の創意工夫を図る。 (3) 検定試験や資格取得へのチャレンジ。 <p>2 人間としての在り方・生き方を考えさせる生徒指導</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) カウンセリングマインドに基づいた指導、及び担任による面談指導(家庭訪問含む)の充実。 <p>3 生徒の満足度を高めるための研修と実践</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 生徒や保護者、地域の声に耳を傾け、有益な情報や要望を真摯に受け止め、的確かつ迅速にフィードバックする。 (2) 学校行事、生徒会活動、部活動の活性化を図り、学校への帰属意識を高める。

評価領域	重点目標(取組の重点課題)	具体的方策	評価	成果と課題
管理・運営	安心・安全で楽しい学校環境	個人面談・家庭訪問を実施し生徒個人や家庭状況をしっかりと把握する。	B	各学期に担任による面談を実施し、生徒理解に繋がった。学校行事や部活動も生徒会が中心となり活発に実施できた。今後も、「学びの場」としての学校作りが課題である。
		生徒個々の学習状況を把握し、実態に即した授業指導の工夫改善を行う。	B	
		学校行事や部活動等への積極的な参加を促し、学校の楽しさを味わわせる。	B	
	外部との連携による開かれた学校づくりの推進	各関係機関・生徒の出身中学校等との連携を深める。	B	
		保護者・中学生への授業公開や、ホームページ等を活用し教育活動をアピールする。	C	
舞鶴市民新聞等地域新聞や一般紙への広報活動及び舞鶴市教育関係者、中丹地区各中学校、企業等への広報活動の充実。	C			
教務部	原級留置・中途退学の防止強化	生徒の生活状況を把握し、家庭連絡、家庭訪問、中学校や職場との連携をとり、欠席・欠課・遅刻防止の指導にあたる。特別支援教育会議や欠課指導を効果的に行う。	B	B 日常の対話により生活状況の把握がなされ、それ自体がまた指導でもあり職員の基本的姿勢になっている新たな取り組みはしたものの校内生活体験発表会は企画できなかった。
	校内生活体験発表大会への取組	働きながら学ぶ生徒の体験交流と発表能力の向上を図るため、校内においてもその機会を設ける。京都府大会及び全国大会への出場に向け、指導する。	C	
生徒指導部	問題事象の減少に向けた取り組み	始業時から終業時まで適宜複数教員で校内巡回を行い、問題事象を事前に防ぐ。	B	B 本校生徒が犠牲となる事件や家出があったが、その後は比較的学校も生徒も落ち着きを見せていて、指導件数もそれほど多くなかった。細かい点をいうとまだまだ改善しなければならぬ課題も少なからずみられるが、先生方の協力が得られ、指導ができたと思う。
		主な指導処置については、生徒及び保護者に周知徹底するとともに、希望進路実現に向けてプラス思考で高校生活を送るよう効果的な指導を行う。	C	
	各関係機関との連携	警察等と適切に連携し、問題の未然防止に努力する。	B	

進路指導部	個々の生徒実態に即した進路指導	進路面談を綿密に行うことで、進路実現のための学習課題等の適切な提示及び支援を行う。また、できるだけ具体的な人生の方向を示すことで、効果的な進路指導を行う。	C	進路面談を綿密に行い、進路目標の達成も含め、一定効果をあげることができた。 ハローワークとは日常的に連携をとった。生徒の支援に一定の貢献ができた。 進路ガイダンス、進路面談、受験対策を計画的に実行した。 企業訪問についてはさらにいい活動が必要である。
	在学生徒の就業指導	ハローワークと日常的に密接な連携をとり、新しい情報を積極的に提供し、就業指導を進める。	B	
	4年次の進路指導	進路希望調査、進路面談を効果的に実施し、正社員就職や希望する進学につなげていく。受験対策として、面接指導、学習指導を日常的に行う。	A	
	関係機関との連携	就職実績のある企業や生徒の就労先を訪問し、求人開拓を進める。オープンキャンパス、体験入学に関する情報提供及び支援を行う。	B	
人権教育部	基本的人権の精神を高める人権学習	人権意識を高め、行動につなげ、豊かな人格形成を培う。	C	豊かな人格形成という点ではまだ内容的に不十分であった。 修学援助については、一定支援の効果はあったが、さらに綿密な指導が必要である。
	適切な修学援助	困難な条件を持つ生徒の修学援助を積極的に行い、希望の進路実現を達成する。	B	
保健部	食育基本法に基づく浮島分校内での取り組み	食事の大切さを教え、給食の喫食率を上げる指導を行う。	B	給食を摂るよう生徒に訴えた。しかし、好き嫌いが激しく夏場の喫食率は悪かった。また自分の周りのごみの多さを認識させ取り組みを行ったが成果が上がらなかった。
	日常的な美化活動の指導	水曜日の定期清掃を確実に行うとともに、社会に奉仕する態度を培う取組を行う。	C	
(担任部) 第1学年	学習環境の改善と維持	クラスの実態、課題をつかみ改善を促すと共に、教室の美化等学習環境の維持に取り組む。	B	黒板や床、机の整理整頓を行った。またHRではポイ捨て等の指導をした。

	原級留置、休・退学の防止に向けた指導	ホームルーム等で進級・就学に対する意欲を喚起するような話、声かけを行う。また欠席等が多い生徒に対しては家庭と連携し、その改善に努める。	C	B できるだけ原級留置等は出したくなかったが、結果として多くの原級留置や休学、退学が出てしまった。
第2学年	学習環境の改善と維持	年度当初に個人目標を1つ設定させ、年度を通してその達成に努力させる。また、クラスの実態や課題をHRで生徒と共に考え、状況改善に向けて学級目標を設定するなどの手だてを行う。昨年度に引き続き、学年便りなどを通して、行事や学習の見通しを持たせると共に、努力している生徒やクラスの様子を取り上げることで成長への動機付けを行う。	B	B 個人目標の設定や学年便りの発行を通して、学習状況の改善や行事への動機づけなどを図ることができた。しかし、指導が単発に終わってしまい、大きな改善には至らなかった。あらゆる機会を通して指導していきたい。
	学校行事への布石	生徒が各学校行事の意義や目的を認識した上で活動に参加できるように、日頃から用意周到な布石を行い、その成功に向けて、生徒を中心に組み立てる。また、行事を通して得られた事柄を、日頃の学習活動に繋がられるように指導する。	A	
第3学年	目標の設定を図る。	日々の生活が惰性的にならないよう目標を設定し、計画的な日常が送れるように工夫する。遅刻欠課をしない、やむを得ず欠席をする時は必ず連絡を入れる、提出物は必ず出す、交通ルールは守る、人の嫌がることはしないなどの、人としての当たり前の道理が身に付くような設定を図る。	B	B 結果的に三名の生徒が進級不可能な状況を招いた。一名は退学、一名は通信制への転学、一名は原級留置である。家庭との連絡を密に指導してきたが、残念な結果となった。しかし全体的にみれば三年生としての自覚も身に付いてきたと評価しても良いのではないか。
	原級留置、休・退学の防止に向けての指導	休学・留年は退学の伏線となる危険性がある。常に生徒との連絡を密にし、きめ細かな指導を行う。時に家庭とも連絡し合い、学校家庭での生活を保護者と同じ視点で認識しあうよう努める。	C	
第4学年	最高学年に対する自覚	普段の学校生活や学校行事などを通じて最高学年としての自覚や責任感を持たせ、他学年の見本となるように努力させる。	B	B 体育祭や文化祭など特に学校行事において、他学年をリードしていた。 四者面談や模擬面接が功を奏し、学校

	進路実現へ向けた取り組み	個別面談など生徒と常にコミュニケーションを取りながら進路実現へ向けた指導やアドバイスなど効果的な進路指導を行う。	B	B	幹旋の就職先に多くが希望し、生徒のほとんどが内定をもらうなど、進路実現に向けて頑張ってくれた。
教科担当	基礎知識の定着	校内漢字検定を軸に基礎力の育成を図る。また、各種検定や資格試験にも目を向けさせ自主的に学習できる生徒の割合を増やす。	C	C	普段の授業を工夫しながら、生徒の学ぶ姿勢を育てることを目標にしていたが残念ながら十分な成果が得られなかった。学ぶという事をもっと考えさせる授業取り組みとしたい。
	魅力ある授業（わかる授業）の展開	教科書の内容に沿いながら学力実態に即した学習プリントや視聴覚教材等を準備し授業の展開を図る。また、ステップアップ式の演習プリントを準備するなど工夫をし、達成感を持てるようにする。日々の授業展開の中で基礎学力回復の取り組みを取り入れる。	B		
	人間の在り方・生き方の指導	各教科において機会あるごとにキャリア教育を取り入れる等工夫し、自分の将来についての、生きる知恵や指針を身につける。	C		
I T 情報	ホームページの更新	基本的には各学期ごとに更新を行い新聞記事等、特記事項など更新の必要があれば検討を進める。	C	C	HPに関しては自身のスキル不足から副校長先生にお願いすることになった。HPの勉強をして早く自分自身で更新できるようにしたい。映画鑑賞等行事などにおいてはサポートができた。
	I T 機器の活用	プロジェクターを使った視覚学習やインターネット検索などパソコンを使った学習を推進しサポートする。	C		
部活動	全国大会・近畿大会・各種発表に向けた取組	年間を通して継続的に活動し、技量の向上を図り目標達成を目指す。	A	A	特に陸上競技・卓球・バドミントンが活躍した。
次年度に向けた改善の方向性	生徒の全てを受け容れ対話を密にし、家族としての浮島分校を目指しているが、「学びの場」としての場面が少し弱い。この厳しい世の中で自分の力で生き抜く生徒を育てるには、やはり「学力」というものは大切である。よって、次年度は、授業を中心とした「学びの場」作りを第1目標としたい。				